溝口研究室

経済科学部　経済学プログラム

WEBサイト⇒

人文社会科学系　教授

溝口　由己　MIZOGUCHI Yuki

専門分野	中国経済論、グローバル経済論、現代資本主義分析

人文社会科学

分断化する世界とグローバル経済

キーワード	反グローバル経済、米中対立、COVID-19、民主主義の危機、長期不況

研究の目的、概要、期待される効果

行き過ぎたグローバリゼーションから国家主権回帰への揺り戻しが、2016年に特に英米で顕著におきました（英国のBrexit、米国のトランプ当選）。

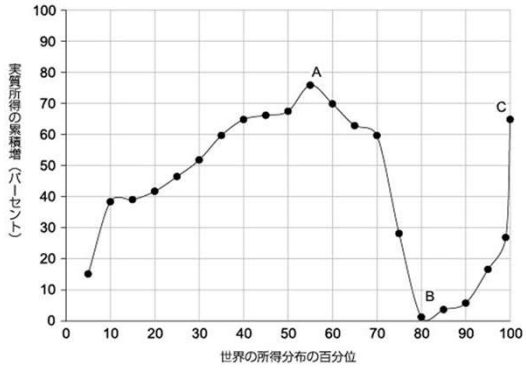
80年代以降、各国は新自由主義に基づくハイパーグローバリゼーションの要請に国内経済を適応させてきました。しかし国内の社会調整をグローバリゼーションの要請に従属させることの無理が、地盤沈下した先進中産階級のNOの声を通じて露わになりました。

新潟大学コア・ステーション共生経済学研究センターは2016年のこうした歴史的転換に関する研究を成果として刊行しました（右上写真）。

そして国家主権回帰が「アメリカファースト」に代表される国家エゴの形をとっているため、後退する国際秩序の下での国家間エゴの確執は、力の論理が跋扈する世界にいま帰結しています。

コロナ禍はこの変化を加速させ、むき出しの力の論理は、ウクライナで戦争として具現化しています。

共生経済学研究センターはいま、「分断化する世界とグローバル経済」に関する研究プロジェクトを進めています。2024年度にその成果を刊行する予定です。



グローバルな所得水準で見た１人当たり実質所得の相対的な伸び
1988-2008 年

関連する知的財産論文　等	溝口由己編著（2018）「格差で読み解くグローバル経済」ミネルヴァ書房。 溝口由己（2022）「グローバリゼーションと民主主義のジレンマを越えて」『TASC MONTHLY』No.542。

アピールポイント

歴史的変動期に入った世界の「いま」を、政治経済学の視点から読み解いていきます。

世界が再野蛮化するなか、オルタナティブを模索したいと考えています。

つながりたい分野（産業界、自治体等）

・グローバル化と民主主義のジレンマに関心のある人。